

企業における利益の健全性

令和5年10月16日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

利益率の健全性と数量販売の適正化は、市場におけるその需要へ、製品における優位性ととも、高い利益構築を求め、企業の健全性を行うことが企業の安定化を与えるのである。

これらは企業の内実が、その改善において、企業の健全性を時代性に対して求められることである。

これらは、IT化とシステム化、流通のシンプル化など、時代先端性における企業構築が、その高い効率性を企業に実現でき、これらにおける高い利益性への転換は、企業の絶対的な健全化なのである。

これらはグローバリゼーションと時代における新しい企業要求なのである。これら新しい企業基準は、時代先端におけるグローバル企業と同じ自己要求を求められることを意味するのである。

これらは新しい企業におけるコンセンサスの構築が、これらを実現することを意味するのである。

企業における高い利益性は、企業の絶対的な健全性であることは理解しなくてはならない。

大量生産と大量販売というアメリカのシステムは、企業が製品コストの低減と企業の高い効率化において、企業において、留意されるべき現実なのである。

企業のシステム化と自動化というインダストリー4.0という新しい現実は、これら企業のプレゼンスの永続を与えるため、これらへの参加の必要性を提案できるのである。

これらはグローバリゼーションにおける世界の先端性と新しい企業基準という現実であり、これら自己基準における自己構築への転換は、時代性と世界基準における企業構築において、その企業における必要性であることは必ず真実なのである。これら新しい利益基準における企業構築は、企業の内実の構築とともに、企業の健全化を与えるのである。